

2019 年度 研究の進捗状況

令和 2 年 3 月 31 日現在

氏名：川戸湧也 （平成 28 年度入学）

学会発表

1. 川戸湧也・石井孝法・山崎将幸・鈴木利一・稲田達哉：グランドスラム・パリ大会
2018 における固技の競技分析研究. 日本武道学会第 52 回大会, 2019 年 9 月 5 日～6
日, 國學院大学.
2. 松村樹希・中西英敏・松本秀夫・川戸湧也・鈴木利一：柔道競技における固技の競技
分析法の開発と検証. 日本武道学会第 52 回大会, 2019 年 9 月 5 日～6 日, 國學院大
学.

学術論文

1. 川戸湧也・石井孝法・山崎将幸・鈴木利一・稲田達也・伊藤泰：グランドスラム・パ
リ 2018 大会男子における固技の競技分析研究. 柔道科学研究, 22, 12-15, 2019 年
5 月.
2. 川戸湧也・南條充寿・南條和恵：コーチの相互作用行動と子どもの認知の関係につい
ての事例研究：仙台大学柔道塾を対象として. 仙台大学紀要, 51 (1), 19-24, 2019
年 5 月.

以上

氏名：奈良 隆章 （平成 28 年度入学）

●学会発表

1. 林卓史, 奈良隆章, 島田一志：大学野球における投手陣の形成と継投の実践. 日本体育学会第 70 回大会, 神奈川, 2019 年 9 月, 慶応義塾大学.

●学術論文

1. 奈良隆章, 木内敦詞：自己開示によるライフスキル向上を意図した大学体育授業の設計. 大学体育スポーツ学研究, 17 : 38-47, 2020 年 3 月.
2. 奈良隆章, 木内敦詞：大学新入生におけるライフスキル獲得水準の性別および専攻別の特徴. 運動疫学研究, 22(1) : 13-21, 2020 年 3 月.
3. 川口啓太, 八木快, 磯和純一郎, 奈良隆章：野球内野手における送球の正確性を高める練習方法の提案. スポーツパフォーマンス研究, 11 : 459-471, 2019 年 10 月.

●博士論文題目

自己開示経験によるライフスキル獲得を意図した大学体育授業の設計とその学修成果の検証

以上

氏名：金谷 麻理子（平成 29 年度入学）

・学会発表

- 1.金谷麻理子：大学生選手の技能向上を促す優れた指導者の運動観察内容の分析、日本体育学会体育哲学専門領域 2019 年度第 1 回定例研究会、2019 年 6 月 1 日、東京（筑波大学東京キャンパス）.

・論文作成

- 1.金谷麻理子、高木英樹：大学体育におけるトランポリンの技能向上を目指した授業の学修効果に関する研究：意識的な運動学習の実践可能性の検討. 体育学研究投稿中（初回投稿日：2019 年 11 月 1 日）

・博士論文

金谷麻理子：大学体育におけるスポーツの技能向上を目指した実技授業の教育的価値と学修効果に関する研究 ―器械運動（トランポリン）の授業に着目して―

・その他

特になし

氏名：山内宏志（平成 29 年度入学）

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

なし

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

著者：山内宏志，木内敦詞，清水安夫

題目：ライフスキルが大学適応感に及ぼす影響－大学適応感尺度の開発による検討－

種類：原著論文

雑誌：学校メンタルヘルス（日本学校メンタルヘルス学会）

受理日：2019 年 10 月 7 日受理（2020 年 6 月掲載予定）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表題：ライフスキル獲得と大学適応の促進を意図した教養体育カリキュラムに関する実証研究
（下記 3 課題にて構成）

課題 1：ライフスキルが大学適応感に及ぼす影響－大学適応感尺度の開発による検討－（受理）

課題 2：教養体育新カリキュラム開発について－国際基督教大学の事例－（執筆中，大学体育スポーツ学研究へ投稿予定）

課題 3：ライフスキル向上による大学適応感促進効果モデルの検討：体育実技授業のカリキュラム別教育効果の検証（執筆中，体育学研究へ投稿予定）

●その他（研究費申請・獲得状況など）

なし

以上

氏名：山中裕太（平成 29 年度入学）

●学会発表

なし

●学術論文

1. 山中裕太，本間三和子，高子英樹：大学体育水球授業モデルの開発 ―水球を教材とした大学体育授業の実践に関する効果と課題の検討を通して―. 大学体育研究 41, p37-49, 2019 年 3 月.

●その他

1. 笹川スポーツ財団 2017 年度研究助成

山中裕太、高木英樹：小学生水泳授業における水中安全訓練に着目した水球教材の開発とその有用性の検討 2017 年度 笹川スポーツ研究助成 p325-331 2018 年 3 月

修正中博士論文テーマ

大学教育における水泳授業において水中での自己保全能力の向上に関する研究―水球教材に着目して―

以上

氏名：田中 耕作 （平成 29 年度入学）

●学会発表

吉岡利貢，平岡 錬，田中耕作，梶谷亮輔．中距離ランナーにおける回復脚の動作に影響を及ぼす要因．第 32 回ランニング学会大会．2020.3.

●論文作成

田中耕作，フダラキス G ヨルギオス，森寿仁，山本正嘉：思春期の長距離走選手における 3000m 走能力と 4 種類の跳躍能力との関係．ランニング学研究，31(1)：1-8, 2020,3,16. 査読あり

●博士論文の研究計画の全体像

長距離走の能力を効果的に改善するための新たな補助トレーニング法とその指導法に関する研究

●その他

なし

以上

氏名：藤井雅文（平成 29 年度入学）

●学会発表

- 1) ○緒方 剛, 筒井奈津子, 鴻江寿治, 佐藤大輔, 田中 光, 藤井雅文, 村上光平, 鈴木智晴, 前田 明. 鴻江理論に基づいた運動処方の事例研究－靴の違いがランニングパフォーマンスに及ぼす影響－ 第5回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 東京ビックサイト(東京),2019年7月9日
- 2) ○筒井奈津子, 緒方 剛, 鴻江寿治, 佐藤大輔, 田中 光, 藤井雅文, 村上光平, 亀田麻依, 鈴木智晴, 前田 明. 鴻江理論に基づいた運動処方が走パフォーマンスに及ぼす影響 第5回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 東京ビックサイト(東京),2019年7月9日
- 3) ○鈴木智晴, 藤井雅文, 前田 明. 野球投手における直球の「ノビ」や「キレ」に関する研究－初速と終速の差に着目して－ 第5回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 東京ビックサイト(東京),2019年7月9日
- 4) ○佐藤青児, 安達恒明, 亀田麻依, 藤井雅文, 鈴木智晴, 前田 明. さとう式フレクサーアームの装着が大学野球選手のスイング速度に及ぼす影響 第5回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 東京ビックサイト(東京),2019年7月9日
- 5) ○若松朋也, 佐藤伸之, 村上光平, 藤井雅文, 前田 明, 鈴木智晴. 大学野球選手におけるメディシンボール投げと打撃パフォーマンスの関係 第5回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 東京ビックサイト(東京),2019年7月9日
- 6) ○佐藤伸之, 藤井雅文, 村上光平, 若松朋也, 鈴木智晴, 前田 明. 野球における各コースの打球速度の再現性と打撃成績との関係 第5回日本スポーツパフォーマンス学会大会, 東京ビックサイト(東京),2019年7月9日
- 7) ○大石祥寛, 蔭山雅洋, 亀田麻衣, 藤井雅文, 前田明. 野球選手の夕方の疾走パフォーマンスを高めるための早朝トレーニングの検討－スクワットとプライオメトリクスの一過性の影響に着目して－ 九州体育・スポーツ学会第68回大会, 鹿児島大学(鹿児島),2019年8月31日—9月1日
- 8) ○蔭山雅洋, 大石祥寛, 藤井雅文, 前田明. 野球選手の疾走パフォーマンスに影響する体力・記述要因の検討－クラスター分析による類型化からみた30mタイムと跳躍能力およびピッチ・ストライドとの関係－ 日本体育学会第70回大会, 慶応義塾大学(東京),2019年9月10—12日
- 9) ○蔭山雅洋, 大石祥寛, 北哲也, 藤井雅文, 前田明. 野球選手のステップタイプに応じた30m走中の疾走動態の検討 日本体育学会第70回大会, 慶応義塾大学(東京),2019年9月10—12日
- 10) ○大石祥寛, 蔭山雅洋, 藤井雅文, 前田明. 早朝と夕方における疾走中の地面反力の違い - 大学野球選手を対象として - . 日本体育学会第70回大会, 慶応義塾大学(東京),2019年9月10—12日

- 11) ○小松崇志, 佐藤伸之, 若松朋也, 鈴木智晴, 藤井雅文, 福永哲夫, 前田明. 連投および投球数が投球速度および正確性に及ぼす影響. 第7回日本野球科学研究会, 法政大学(東京), 2019年11月30日 - 12月1日
- 12) ○佐藤伸之, 小松崇志, 若松朋也, 藤井雅文, 村上光平, 鈴木智晴, 前田明. スタンドティーを用いた苦手コース改善トレーニングが打球速度の再現性に及ぼす影響. 第7回日本野球科学研究会, 法政大学(東京), 2019年11月30日 - 12月1日
- 13) ○村上光平, 佐藤伸之, 藤井雅文, 若松朋也, 鈴木智晴, 前田明. ゴルフスイングが野球の打撃パラメータに及ぼす即時的効果の検証. 第7回日本野球科学研究会, 法政大学(東京), 2019年11月30日 - 12月1日
- 14) ○蔭山雅洋, 中島一, 中本浩揮, 藤井雅文, 前田明. 発育期の野球選手におけるバットスイング速度の発達に関する研究. 第7回日本野球科学研究会, 法政大学(東京), 2019年11月30日 - 12月1日
- 15) ○Nobuyuki Sato, Chiharu Suzuki, Kohei Murakami, Masafumi Fujii, Akira Maeda. The Relationship between the Range of the Velocity of Batted Balls Which Were Pitched into Various Courses at the Time of Batting Practice and the Results of Games. 24rd annual ECSS Congress Prague/Czech, 2019 年 7 月 3-6 日

●論文作成

- 1) 藤井雅文, 鈴木智晴, 村上光平, 前田明, 中本浩揮. 高校野球における自己調整学習能力と競技レベルの関係および指導スタイルの検討. RJPS スポーツパフォーマンス研究, 11, 208-223, 2019
- 2) 藤井雅文, 鈴木智晴, 村上光平, 前田明. 野球投手における投球時での発声が投球速度及びボール回転数に及ぼす影響 ～リリース時に力が抜けてしまう投手の一事例～. RJPS スポーツパフォーマンス研究掲載許可
- 3) 村上光平, 亀田麻依, 加藤忠彦, 鈴木智晴, 藤井雅文, 前田明. バドミントンのスマッシュが野球選手の投球速度および動作に及ぼす影響 - 2 名を対象としたトレーニング事例 - RJPS スポーツパフォーマンス研究, 11, 244-256, 2019
- 4) 鈴木智晴, 藤井雅文, 村上光平, 中本浩揮, 前田明. 試合映像から見る野球捕手の二塁送球時間と盗塁阻止実現確率の関係：:ロジスティック回帰分析を用いた検討. 体育学研究, 64, 79-88, 2019

●博士論文の研究計画の全体像

- ・表題「自己調整学習能力の高い大学野球選手を育てる指導方法の探求」
- ・課題Ⅰ：高校野球における自己調整学習能力についての質問紙調査（対象者：約 600 人）

- ・課題Ⅱ：大学野球における自己調整学習能力についての質問紙調査（対象者：約 500 人）
- ・課題Ⅲ：自己調整学習能力を高めるための指導事例（PDCA サイクル）
- ・課題Ⅳ：自己調整学習能力が向上した大学野球チームの個人パフォーマンス及びチームパフォーマンスの調査（対象者：約 10 名）

●その他

以上

氏名：久保田 もか （平成 30 年度入学）

●学会発表（発表者、題目、発表大会、大会日）

- ・長崎大学教育実践研究フォーラム

発表者：高橋浩二，久保田もか，河合史菜

題 目：思考力、判断力、表現力等の育成を目指した運動観察能力のポイント化

大会日：令和元年 11 月 17 日

- ・日本バレーボール学会第 25 回大会

発表者：久保田もか

題 目：学校体育のスパイク技術習得における学習者の課題

大会日：令和 2 年 3 月 8 日

●論文作成（著者、題目、投稿日など）

- ・久保田もか：バレーボールゲームにおける得点状況と勝利確率－大学女子を対象にして

ー．長崎大学教育学部紀要第 6 集，pp189-195，2020 年 03 月

- ・久保田もか：体育授業におけるバレーボール指導のための基礎的研究～スパイクの指導法を
探る～．バレーボール研究第 22 号，投稿中（2020 年 02 月）

- ・久保田もか：バレーボールにおけるスパイクの技術改善に向けた授業実践の一事例．長
崎大学教育学部教育実践研究紀要第 19 号，投稿中（2020 年 03 月）

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

表 題：学校体育のバレーボールにおける有効なスパイク指導法の開発

課題Ⅰ：学校体育におけるバレーボール指導の基礎的研究－スパイクを対象として－

課題Ⅱ：スパイク指導法の提示

●その他（研究費申請・獲得状況など）

- ・2020 年度日本バレーボール学会調査研究費採択

研究代表者：久保田もか

研究期間 ：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月末日

以上

氏名：佐藤冬果（平成 30 年度入学）

●学会発表

- 1) 佐藤冬果、坂本昭裕「大学生のSelf-authorship能力に関する評価尺度を用いた検討」、『大学教育学会第41回大会』、2019年6月1～2日、玉川大学（東京）。
- 2) 佐藤冬果、坂本昭裕、金子和正「スキー・スノーボード実習が女子大学生のSelf-authorshipに与える影響」、『日本野外教育学会 第22回大会』、2019年6月22～23日、仙台大学（宮城）。
- 3) 井上望、金子和正、豊留雄二、佐藤冬果「大学キャンプ実習で育まれる女性のリーダーシップ：女子大学生の優柔不断さに着目して」、『日本野外教育学会 第22回大会』、2019年6月22～23日、仙台大学（宮城）。
- 4) Fuyuka SATO, Akihiro SAKAMOTO : Impact of Physical Education Class Using Adventure-Based Program on University Student's Self-Authorship, The 2019 International Conference for the 8th East Asian Alliance of Sport Pedagogy, 2019年9月22～23日、早稲田大学（東京）。
- 5) Fuyuka SATO, Akihiro SAKAMOTO : Adventure-Based Program to Develop University Student's Self-Authorship, AORE (Association of Outdoor Recreation and Education) - AEE(The Association of Experiential Education) Conference 2019, 2019年11月13～15日、Spokane Convention Center (Washington, United States)。
- 6) 佐藤冬果、大友あかね、小宮山咲希、坂本昭裕「野外運動を教材とした大学体育授業によるSelf-authorshipの育成」、『第8回大学体育スポーツ研究フォーラム』、2020年2月27～28日、新潟医療福祉大学（新潟）。

●論文作成

- 1) 佐藤冬果、坂本昭裕：Self-authorship評価尺度の作成と信頼性・妥当性の検討、大学教育学会誌、第41巻第2号、pp.25-34、2020年1月。

●博士論文の研究計画の全体像（研究全体の表題と各課題名など）

<研究全体の表題>

Self-authorship の育成を促す大学体育に関する研究

【課題 1】 Self-authorship の理論的背景の整理および構造の検討

研究① Self-authorship の理論的背景の整理

研究② Self-authorship の構造の検討（尺度開発）

【課題 2】 Self-authorship の発達を促す授業モデルの実践および効果検証

研究③ Self-authorship の発達を促す授業モデルの実践

研究④ Self-authorship の発達を促す授業モデルの効果検証

【課題 3】 授業モデルによる受講生の Self-authorship 獲得過程の検討

研究⑤ Self-authorship 獲得過程の検討

●その他

1) 笹川スポーツ財団 2019 年度研究助成（奨励研究）研究番号 190B2-037

（研究期間 2019 年 4 月 1 日～2020 年 2 月 28 日）

2) ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2020 年度 YMFS スポーツチャレンジ助成（奨励研究）

（助成期間 2020 年 4 月～2021 年 3 月）

以上

氏名：藤野 和樹 （平成 30 年度入学）

●学会発表

1. 藤野和樹，木内敦詞：大学体育バドミントン授業における受講者の競技経験と技能レベルの関係性，第 7 回大学体育スポーツ研究フォーラム，2019 年 2 月 20 日，目白大学新宿キャンパス.
2. 藤野和樹：大学体育バドミントン授業受講者におけるサービスストロークに関する研究，第 2 回バドミントン学会大会，2019 年 3 月 17 日，首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス.
3. 藤野和樹：大学体育バドミントン授業における学習者に関する知識－競技経験と自己評価技能の関係－，第 2 回バドミントン学会大会，2019 年 3 月 17 日，首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス.
4. 藤野和樹，木内敦嗣，升佑二郎，林直樹：大学体育バドミントン授業における技能ループリックの考案，日本体育学会第 70 回大会，2019 年 9 月 10 日，慶應義塾大学日吉キャンパス.
5. 藤野和樹，木内敦詞：ADDIE モデルを用いた大学体育授業の再設計，第 8 回大学体育スポーツ研究フォーラム，2020 年 2 月 27 日，新潟医療福祉大学.

●学術論文

1. 藤野和樹，八田直紀，升祐二郎，林直樹：大学バドミントン授業におけるサービスストロークに関する研究－フォアハンドによるロングサービスに影響する要因の探索的検討－，コーチング学研究，2019 年 3 月.
2. 藤野和樹，八田直紀，木内敦嗣：大学体育バドミントン授業受講者における競技経験と技能レベルとの関係性，スポーツパフォーマンス研究，2019 年 5 月.

以上

氏名：笹子 悠歩 (平成 30 年度入学)

●学会発表

- 1) 山口大貴, I フダラキス, 小原侑己, 笹子悠歩, 小林寛和, 山本正嘉: 競技力の高いスピードスケート選手が 1 ヶ月間で体力及び身体組成を大幅に改善した事例; 自身の取組みを可視化・言語化することによる競技力向上と行動変容への寄与. 第 31 回日本コーチング学会大会, 鹿児島, 03・2020.
- 2) 笹子悠歩, 山本正嘉: 登山の励行が心身の健康に与える影響; ウォーキング, 水中運動, 筋力トレーニングとの比較から. 第 74 回日本体力医学会大会, 茨城, 09・2019.
- 3) 笹子悠歩, 梶ちか子, 山本正嘉: 登山中の身のこなしをよくする「登山体操」の開発; 生理的および力学的応答から見た運動強度の評価. 第 39 回登山医学会学術集会, 茨城, 06・2019.
- 4) 照内明良, 笹子悠歩, 山本正嘉: 登高速度のわかる機器を用いて体力相応の歩行ペースを自主学習する試み. 第 39 回登山医学会学術集会, 茨城, 06・2019.

●論文作成

- 1) 笹子悠歩, 梶ちか子, 山本正嘉: 生理的および力学的応答から見た登山体操の運動強度(資料). スポーツトレーニング科学 21 : 45-47, 2020
- 2) 笹子悠歩, 藤田英二, 山本正嘉: 低山での登山を励行する中高年登山者の体力特性. 体力科学 69 : 171-180, 2020.
- 3) 笹子悠歩, 梶ちか子, 山本正嘉: 登山中の身のこなしをよくする「登山体操」の開発; 生理的および力学的応答から見た運動強度の評価. 登山医学 39 : 91-99, 2019.
- 4) 照内明良, 笹子悠歩, 山本正嘉: 登高速度のわかる機器を用いて体力相応の歩行ペースを自主学習する試み. 登山医学 39 : 83-90, 2019.
- 5) 笹子悠歩, 上野由花, 山下なつみ, 山本正嘉: 登山の励行が心身の健康に与える影響についての調査研究: ウォーキング励行者との比較から. 体育学研究 (投稿中) 査読あり
- 6) 山口藍李, 笹子悠歩, 萬久博敏, 山本正嘉: 背泳ぎの技術改善を目的とした補助トレーニングの成功事例～泳動作における上下肢の連動とターン時のバサロキックの改善を目的として. スポーツパフォーマンス研究, (投稿中) 査読あり
- 7) 末次航平, 笹子悠歩, 中村夏実, 山本正嘉: 大学漕艇競技選手の基礎体力および漕技術の改善を目的としたローイングエルゴメータによる補助トレーニングの工夫. スポーツパフォーマンス研究, (投稿中) 査読あり

●博士論文の研究計画の全体像

表題: 登山を安全かつ健康的に実施するための運動処方と指導法に関する研究

- ・課題 1: 低山での登山の励行が中高年者の健康および体力に与える影響について
(登山医学会: 論文掲載済み、ウォーキング学会: 論文掲載済み、体力科学: 論文掲載済み)

・課題 2：登山を安全に行うための方法論の検討

●その他

特になし

以上

氏名：山口大貴 （平成 30 年度入学）

●学会発表

1. 山口大貴，金高宏文，照内明良，山本正嘉
垂直跳における跳躍動作改善のコツを探索：1ヶ月で跳躍高を 65cm から 75cm に改善させた事例. 第 32 回日本トレーニング科学会大会 2019 年 10 月 12 日，愛知学園大学 名城公園キャンパス（愛知）. ※大型台風により抄録発表.
2. フダラキスイオアニスヨルギオス，小原侑己，山口大貴，山本正嘉
柔道競技を想定したサーキットウエイトトレーニング「クロスフィット形式」プロトコルの開発と生理応答. 第 5 回スポーツパフォーマンス学会大会 2019 年 7 月 9 日，東京ビッグサイト（東京）.
3. 山口大貴，イオアニス G フダラキス，小原侑己，笹子悠歩，小林寛和，山本正嘉.
競技力の高いスピードスケート選手が 1 ヶ月間で体力及び身体組成を大幅に改善した事例 自身の取組みを可視化・言語化することによる競技力向上と行動変容への寄与. 第 31 回日本コーチング学会大会 2020 年 3 月 23-31 日，WEB 研究発表会.
4. 田川浩子，山口大貴，金高宏文，小森大輔，瓜田吉久.
運動技能の習得・安定化を図るための客観的データ活用の意義を考える 円盤投におけるファーストターンの地面反力データが運動意識を明瞭化した事例より. 第 31 回日本コーチング学会大会 2020 年 3 月 23-31 日，WEB 研究発表会.
5. 田中勇悟，田川浩子，小森大輔，山口大貴，金高宏文.
高速移動するスキップ運動の運動意識が動作特性に及ぼす影響：接地時の「上拍」と「下拍」のアクセントの違いから. 第 31 回日本コーチング学会大会 2020 年 3 月 23-31 日，WEB 研究発表会.
6. 草野陸，松下豊顕，田川浩子，田中勇悟，山口大貴，金高宏文.
スプリント走における運動・動感構造を手がかりにした補助運動がパフォーマンスに及ぼす影響：ある大学短距離競技者における 1 週間の取組事例の分析より. 第 31 回日本コーチング学会大会 2020 年 3 月 23-31 日，WEB 研究発表会.

●論文作成

1. 山口大貴，金高宏文
下肢が発揮する力・パワーを向上させるインソールの開発研究（研究集録）. 鹿屋体育大学学術紀要，57:37-40. 2019 年 8 月.
2. イオアニスヨルギオスフダラキス，山口大貴，小原侑己，小山田和行，山本正嘉
柔道競技を想定したサーキットウエイトトレーニング「クロスフィット」形式プロトコルにおける運動時の生理応答. 鹿屋体育大学学術紀要，57:83-94. 2020 年 12 月.
3. 田原瞭太，イオアニス G フダラキス，照内明良，山口大貴，中村夏実，山本正嘉

陸上での補助トレーニングの工夫によりパドリング技術を改善した大学カヌースプリント選手の事例～「ヒップウォーク」を用いた体幹動作の改善～. スポーツトレーニング科学, 21:1-9, 2020 年 3 月.

4. 中井彩子, 橋本直, 山口大貴, 山本正嘉
アップダウンのある自転車競技ロードレースの周回コースで最良のパフォーマンスを発揮するためのペース戦略の検討; 競技力の高い女子選手を対象とした事例研究. スポーツパフォーマンス研究, 12: 220-234, 2020. 査読あり
5. 山口大貴, 中井彩子, 金高宏文, 山本正嘉
指導者が持つ高度な自転車ペダリング技法を手がかりに短期間で選手が技能改善できた事例; 全日本選手権 U23 ロードレースで優勝した大学女子選手の 1 ヶ月間の取り組み. スポーツパフォーマンス研究 (投稿中) 査読あり
6. 山口大貴, 金高宏文, 山本正嘉
スポーツ用の自転車におけるペダリング技能の客観的な可視化方法の開発: 荷重と脚の使い方に着目して. スポーツパフォーマンス研究, (投稿中) 査読あり
7. 山口大貴, 金高宏文, 山本正嘉
ソーシャルネットワークサービスを活用したグループでの相互指導の事例: 自転車競技におけるスポーツサークルの指導分析より. スポーツパフォーマンス研究, (投稿中) 査読あり
8. イオアニス G フダラキス, 小原侑己, 山口大貴, 中村勇, 山本正嘉
柔道競技を想定した「クロスフィット」形式のトレーニング効果; 大学女子柔道選手への適用事例. トレーニング科学, (投稿中) 査読あり

以上

氏名：小島 亜希子（平成31年度入学）

●学会発表

なし

●論文作成

なし

●博士論文の研究計画の全体像

博士論文のテーマ：「大学舞踊教育における「舞踊創作デザインシート」の開発」

研究課題Ⅰ：創作プロセスに着目した「舞踊創作デザインシート」の有用性

研究課題Ⅱ：熟達したダンサー・振付家の創作手法に関する理論的研究

研究課題Ⅲ：大学舞踊教育における創作指導に関する一考察

●その他（研究費申請・獲得状況など）

科学研究費令和2年度（2020年度）基盤研究（B）申請

研究課題名：「子供のトップクラスの国際交流芸術体験と大学間連携プロジェクトによる若手舞踊家育成」

担当：研究分担者

獲得状況：不採択

以上

氏名：霜鳥 駿太（平成 31 年度入学）

●学会発表

1. Shunta Shimotori, Junichi Nishida, : A study on the effect of Experience in Sports on Developing Courage, International Positive Psychology Association 6th WORLD CONGRESS ON POSITIVEPSYCHOLOGY, JULY 18-21, 2019, MELBOURNE, AUSTRALLIA.
2. 霜鳥駿太, 西田順一, 木内敦詞, 中雄勇人：性格特性的強みの正義がスポーツ行動規範に及ぼす影響, 日本体育学会第 70 回神奈川大会, 2019 年 9 月 10-12 日, 慶応大学.
3. 霜鳥駿太, 木内敦詞, 西田順一：スポーツ経験とポジティブ徳性の関係に迫る-改訂版ポジティブ徳性尺度による検討-, 第 8 回大学体育スポーツ研究フォーラム, 2020 年 2 月 27-28 日, 新潟医療福祉大学.

●学術論文（論文作成）

該当なし

●博士論文の研究計画の全体像

- テーマ：ポジティブ徳性を高めるための大学体育授業の設計およびその学習成果の検証
- ・研究 1：ポジティブ徳性に影響を及ぼすスポーツ経験の抽出（論文執筆中）
 - ・研究 2：ポジティブ徳性を育む体育授業の設計
 - ・研究 3：設計した体育授業の介入および効果の検証

●その他

該当なし

以上

氏名：山田盛朗 （平成 31 年度入学）

●学会発表

なし

●論文作成

なし

●博士論文の研究計画の全体像

【研究全体の表題】

大学体育スノーボード実習における PCM 型授業改善の効果

【各課題名】

研究① スノーボード実習授業における現状と課題①

2020 年 2 月調査

研究② スノーボード実習授業における現状と課題②

研究③ PCM 型授業（PCM 手法）のプログラム評価

【博論テーマ】

大学体育におけるスノーボード指導の現状と参加者の評価を明らかにしたうえで、スノーボード実習での課題解決型授業が有効であるかを検討すること。

●その他

なし

以上

氏名：小原侑己 （平成 31 年度入学）

●学会発表

- ・発表者：小原侑己，木葉一総，山本正嘉
- ・題目：「大学女子バスケットボール選手を対象としたアクティブラーニング型トレーニングの有効性の検討～体力と技術の変化に着目して～」
- ・発表大会：第5回日本スポーツパフォーマンス学会大会
- ・大会日：2019年7月9日

●論文作成

- ・小原侑己，前坂堇，木葉一総，山本正嘉
「大学女子バスケットボール選手の体力と技術を客観および主観の両面から評価して競技力向上に結びつける手法の開発(第 3 報) ～これまでの評価法の改善とそれに基づくテーラメイド型トレーニング介入の効果～」
スポーツトレーニング科学， 21: 27-43, 2020,3,31.

- ・古川右京，小原侑己，山本正嘉
「怪我による長期のチーム離脱で低下した持久力を段階的に向上させ復帰を果たした大学サッカー選手の取り組み事例」
スポーツパフォーマンス研究， 12: 246-259, 2020. 査読あり

- ・小原侑己，山本正嘉
「ICT を活用したサッカー選手の基礎体力トレーニングの指導事例：持久力・筋力の向上を目的とした取り組み」
コーチング学研究，（投稿中）査読あり

- ・イオアニス G フダラキス，小原侑己，山口大貴，中村勇，山本正嘉
「柔道競技を想定した「クロスフィット」形式のトレーニング効果；大学女子柔道選手への適用事例」
トレーニング科学，（投稿中）査読あり

●博士論文の研究計画の全体像

研究表題：大学女子バスケットボール選手が自分自身でトレーニングメニューを考えるこ

とができるようになるための取り組み

研究目的を達成するために2つの研究を実施した。現在は2つの研究を1つの論文にまとめる作業を行っている(投稿準備中)。

●その他

特になし

以上

氏名：森 実由樹 （平成 31 年度入学）

●学会発表

なし

●その他

森実由樹，山本利春，笠原政志，清水伸子，津田好貴，森田秀一，寺中雄希，佐野颯斗
国際武道大学附属 武道・スポーツ科学研究所プロジェクト

「スポーツ選手の体力測定評価システムの構築」

山本利春，笠原政志，森実由樹，清水伸子，津田好貴，寺中雄希，森田秀一，佐野颯斗
国際武道大学附属 武道・スポーツ科学研究所プロジェクト

「学内医科学サポートを通じた学生トレーナー教育ースポーツ活動中の熱中症予防対策と
体育系大学の救急体制の強化ー」

小西由里子，井上哲朗，立木幸敏，刈谷文彦，森実由樹，谷口有子，見波静，宮本瑠美，
水島諒子，三浦アサ子，鶴岡加奈，鶴岡孝一

国際武道大学附属 武道・スポーツ科学研究所プロジェクト

「地域における健康・体力づくりの企画と実践・成果」

清水伸子，山本利春，笠原政志，森実由樹，津田好貴，森田秀一，寺中雄希，佐野颯斗
国際武道大学附属 武道・スポーツ科学研究所プロジェクト

「体育系大学におけるスポーツ傷害調査システムの構築」

以上